

1 自己評価

I 評価結果

(別紙参照)

II 分析・改善方策

1 心の教育の充実

① 道徳教育、人権教育を充実することにより、児童が気持ちのよいあいさつや思いやりのある心を生活の中で実践することができるようにする。

- ・ 学校訪問や参観日等で道徳の授業を進んで公開するように呼びかけてきた。1年生と6年生の人権教育参観日の取組はもちろんのこと、人権教育指導計画に基づいて、日常生活のあらゆる場面で全学年で児童の人権意識が高まるように指導を行ってきた。思いやりの心とは、友達が困っていたら手助けをしたり、友達が悲しんでいたら声をかけたり、友達が良くないことをしていたら注意したりすることであると児童に説明し、思いやりの心を実践することで、笑顔でいっぱい为学校にしようと呼びかけてきた。また、今年度はあいさつにも重点的に取り組み、月目標の1つとして毎月繰り返し、あいさつの大切さを指導したり、児童会が中心になり、あいさつ運動を実施したりしてきた。あいさつができる児童が次第に増えてきている。

2 健康・体力づくり

② 健康教育・特別活動を充実することにより、児童が基本的な生活習慣を身に付けるとともに、目標をもって最後まで活動に取り組むことができるようにする。

- ・ 保護者と連携して、基本的な生活習慣の中でも、特に「すいみん」を取り上げ、睡眠時間を確保をするように啓発してきた。やり抜く気持ちや頑張る気持ちをはぐくむ上で、睡眠の大切さを理解していただくことに努めた。講師を招聘してお話を聞く等を行い、啓発にも努めてきた。年間5回の「すいみんチェック週間」を設けて取り組んできたので、早寝を子どもに呼びかける家庭が増えてきている。体力づくりでは、全校をあげてチャレンジランキングに挑戦したり、長縄跳びに取り組んだりした。

3 確かな学力の向上

③ 協同学習の視点を取り入れた授業改善により、児童が進んで学習に取り組むとともに基礎学力を身に付けることができるようにする。

- ・ 協同学習を校内研究の一つの柱として位置づけ、計画的に授業公開を行ってきた。指導案検討や研究授業を重ねるにつれ、協同学習についての理解が深まってきた。「だれもが行きたくなる学校づくり」事業のサテライト校として総社市全体の研修の場を提供した。また、児童が意欲的に学習に取り組むことができるように、ICT機器の活用を図って、分かる授業づくりに努めてきた。
- ・ 基礎学力の向上のため、朝学習の時間を設定して、基本的な計算や漢字の読み書き等の指導に取り組んできた。朝読書の時間では、読書に取り組むとともに、地域の方と連携して読み聞かせ等を行ってきた。

4 開かれた学校づくり

④ 各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開により、積極的に情報を発信する。

- ・ 校長室便り、PTA便り、学年便り、学級便り、図書便り、保健便り、交通安全便り、食育便り、すいみん家読の依頼等をタイムリーに発行するとともに、ホームページの更新に努め、学校からの積極的な情報発信に努めてきた。また、学校行事や学習活動を積極的に公開し、保護者や地域の方の理解と協力を得るよう努めてきた。

⑤ 家庭や地域との連携を深めることにより、児童の安全・安心を確保するとともに、家庭学習や読書の習慣を定着させる。

- ・ 集団登下校を徹底させ、教員による登下校指導をたすきボランティアの方と

協力しながら毎日行ってきた。また、家庭での読書を習慣づけるため、家読週間を年7回設定し、家庭読書の啓発を図ってきた。家族と一緒に読書ができることを楽しみにしている保護者や児童も増えてきている。しかし、家読週間には読書ができて、日常生活の中で読書をするのは難しいという現状は残っている。家庭学習については1日の家庭学習の時間を「学年×10+10」分という目安を立てて啓発に努めてきた。夏休みや冬休みには、「予定を立てて頑張ろうカード」を配布し、児童が計画的に家庭学習が進められるように取り組んできた。

- ・ 今年度は2学期より、川崎医療福祉大学の学生ボランティアに来ていただき、授業における学習支援をお願いしてきた。夏休みには、総社高校の生徒に3日間の学習サポートをしていただく取組を行い、3日間で約300人の児童が参加した。授業にはゲストティーチャーとして地域のボランティアの方をお招きしたり、学年の行事には保護者や地域の方にサポートをお願いしたりした学年もある。

## 2 学校関係者評価者名

井上 憲司 (有識者)	加古川 聡 (PTA会長)
諏訪 英広 (有識者)	親 健一 (PTA副会長)
加藤 辰彦 (主任児童委員)	木蔵 真由美 (PTA副会長)
宮本 由里子 (地域住民)	

## 3 学校関係者評価

### 1 心の教育の充実

- ・ 学校内でのあいさつはできる児童が増えてきているが、地域に出たときはまだ十分とは言えない。高学年が中心となり、気持ちのよいあいさつができるように学校・家庭・地域が一体となって取り組んでほしい。
- ・ いじめや差別等、人権問題は本当に身近で発生していることを知り、他者の人権を「思いやり」の心をもって大事にし合える人権教育や道徳教育の推進をお願いしたい。

### 2 健康・体力づくり

- ・ 睡眠の大切さを親子で学ぶ場をさらに増やしてほしい。
- ・ 運動会、にこにこ祭り、チャレンジランキングなど具体的で身近なところに目標があることがやる気を起こさせたものと思われる。

### 3 確かな学力の向上

- ・ 教員の授業力向上に関する研修やICT機器の活用等により、分かりやすい授業となるよう様々な工夫がなされることにより、児童のやる気が大いに引き出されている。

### 4 開かれた学校づくり

- ・ 積極的な情報発信については、数多くの便りの発行やホームページの更新など、当初の目標が確実に実行されている。
- ・ 保護者の意識を高め、特に下校時の身守りに参加してもらえるような方策を講じてほしい。
- ・ 1～4全ての項目に共通することとして、管理職を中心として教職員は協働的に懸命に職務を遂行していることを保護者はさらに理解し、家庭が引き受けるべきこと、学校に協力すべきことを熟考し、実践してほしい。

### 5 設置者等による学校への支援

- ・ 児童の個別ニーズに的確に対応し、学力向上を図るために、教員の増員を強くお願いしたい。
- ・ 児童の学習環境をより良いものとするために、学校の建て替えを推進してほしい。

## 4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

本年度の成果と課題をふまえ、学校経営目標をより高いレベルで実現することを目指して、来年度も同様の学校経営目標を設定する。

- 1 心の教育の充実
- 2 健康・体力づくり
- 3 確かな学力の向上
- 4 開かれた学校づくり